

青森県十和田地域における難治性肺炎牛の原因菌， 薬剤感受性及び予後調査

佐々木結香¹⁾ 前田洋佑^{1)†} 佐藤将伍¹⁾ 菅野智裕¹⁾ 高橋史昭¹⁾
田邊太志¹⁾ 森 俊介²⁾ 菊池元宏¹⁾



本文はこちら

1) 北里大学獣医学部 (〒 034-8628 十和田市東二十三番町 35-1)

2) 明治アニマルヘルス(株) (〒 104-8002 中央区京橋 2-4-16)

(2022年2月16日受付・2022年7月12日受理・2022年9月15日公開)

要 約

一次診療で治癒しなかった難治性肺炎牛を対象に気管支肺胞洗浄液 (BALF) から分離された原因菌，薬剤感受性及び予後を調査した。おもな分離菌は *Mycoplasma bovis* (41.7%)，*Trueperella pyogenes* (29.2%)，*Pasteurella multocida* (26.4%)，*Mannheimia haemolytica* (8.3%) で，薬剤感受性に基づいた抗菌薬治療で62.5%の牛が予後良好であった。一方，予後不良牛のBALFから薬剤耐性を示す *M. bovis* が高い割合で分離され，感受性のある抗菌薬選択はかぎられていた。その他の分離菌においても，予後不良群では多くの抗菌薬に対して耐性であり，治療が非常に困難であった。本調査より耐性菌増加が肺炎治療率を低下させている実態が明らかとなった。

——キーワード：気管支肺胞洗浄液，原因菌，薬剤感受性，予後，難治性肺炎。

-----日獣会誌 75, e174～e179 (2022)